

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設モニタリング票 (評価対象年度: 令和6年度)

施設の名称	名取市那智が丘児童センター
指定管理者の名称	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ
施設所管部課(室)	健康福祉部こども支援課

1. 管理形態の推移 【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)	摘要
平成9年5月1日～平成23年3月31日 (H9.5～H16.3増田西児童センター分館) (H16.4～H23.3ゆりが丘児童センター分館)	直営		
平成23年4月1日～平成25年3月31日	管理受託	特定非営利活動法人子育て応援団ひよこ	
平成28年4月1日～	指定管理者	特定非営利活動法人子育て応援団ひよこ (H29.8.3名称変更 特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ)	

(注) 管理形態欄には、直営・管理受託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要 【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ
	所在地	名取市みどり台三丁目19番地の4
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年0ヶ月)	
募集方法	公募 ・ 非公募	

3. 施設の概要 【施設所管課記入】

施設の名称	名取市那智が丘児童センター
所在地	名取市那智が丘二丁目1番地の2
設置年月	平成23年4月(那智が丘児童センターとしてセンター化)
根拠条例等	名取市児童厚生施設条例、名取市放課後児童健全育成事業の設置及び運営に関する基準を定める条例、名取市放課後児童クラブ実施条例、名取市児童館管理規則、名取市放課後児童クラブ実施条例施行規則
設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにするため児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設を設置する。
施設の内容	静養室、創作活動室、集会室、図書室、クラブ室、交流スペース、遊戯室等
開館時間	月曜日～金曜日: 午前9時(小学校等休業日は午前8時)～午後7時
休館日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)
指定管理者が行う管理運営業務	放課後児童クラブ業務、自由来館業務、地域子育て支援事業(一般型)、地域子育て支援事業(出張サロン)、地域活動クラブ業務、相談業務、各種行事及びクラブ活動の実施、自主事業の実施、児童センターだよりの発行(月1回、原稿等の企画構成)、小学校への長期休業時の利用周知
利用料金制度	採用の有無 有 ・ 無
	利用料金の名称

4. 施設の利用実績 【指定管理者記入】

	評価対象年度（A）	前年度（B）	前々年度	評価対象年度の 対前年度比（％） （A） / （B）
	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	
開館日数	293日	293日	293日	100.0%
延べ利用者数	14,972人	14,753人	12,087人	101.5%
利用者数（人/日）	51.1人/日	50.4人/日	41.3人/日	101.4%
主な増減原因	中高生の居場所としての定着や、小学生の自由来館の定着が見られた。遊びの選択の幅を広げたことが要因となっているように思われる。			

（注）対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入すること。

5. 管理運営の収支状況 【指定管理者記入】

（1）収入

（単位：千円、％）

	評価対象年度（A）	前年度（B）	前々年度	評価対象年度の 対前年度比（％） （A） / （B）
	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	
指定管理料	23,800	23,700	22,349	100.4%
利用料金収入				
その他	528	528	1,462	100.0%
収入計（ア）	24,328	24,228	23,811	100.4%

（2）支出

人件費	17,529	18,625	17,026	94.1%
施設管理費	2,288	1,858	1,962	123.1%
事業運営費	2,683	2,879	3,677	93.2%
その他	1,401	866	1,146	161.8%
支出計（イ）	23,901	24,228	23,811	98.7%

（3）収支

収支（ウ）＝（ア） －（イ）	427	0	0	0
前期繰越収支差額	2,875	2,875	2,875	100.0%
次期繰越収支差額	3,302	2,875	2,875	114.9%

6. サービス向上や利用者数の増加等のために実施した主な取り組み 【指定管理者記入】

利用に関しては高止まりの様相が見られたが、那智が丘の特色のある取り組みを期待して訪れる方が増えたように感じる。DXを活用した行事の宣伝や、下増田児童センターとZOOMを利用した利用者向けのオンタイム情報交換（ZOOMラジオ放送）などから地域を越えた利用が見られた。生き物や自然との触れ合いを近隣地域からの利用者を想定し、将来的に那智が丘での子育てを選択肢に加えてもらうよう行事や普段使いなどを設定した。また、来館人数が少ないことを活用し、1回の来館に関する質の向上を図り、満足度を高める活動を実施した。支援担当以外の職員も引き続き交流や行事の提供を行い、育児で疲労を感じている保護者を癒し労う活動も取り入れた。乳幼児については、他の支援拠点では体験できない活動を厳選し、差別化を図った。長期休み期間中は、普段の遊びに小学生との交流を組み込み、遊び相手となることで保護者の負担軽減を図り、異年齢交流の機会を提供した結果、非常に好評であった。

7. 施設利用者の主な声やその対応状況 【指定管理者記入】

- ・ 普段の様子やイベント等での写真が定期的にあれば、様子がわかるのと、子供が写っていた場合に写真やデータを購入したいです「対策」以前コドモンを利用して行っていたが売れ行きが芳しくない所以需要がないと判断してやめた
- ・ 年齢と共に室内にすることが多くなってきたようですが、周りに山があって自然との交流もたくさんできる児童センターで過ごせた時間はいいことだと感じた。また、職員と話せることでリフレッシュできているようだ。
- ・ いつも、色々な企画で子ども達を楽しませていただき感謝している。
- ・ 職員の方々が大変にならない程度であそびを提供していただければと常々思っている。

8. 施設の管理運営における課題 【指定管理者記入】

本年度は、地域との交流が増加し、住民とのつながりがより深まった。エフエムなとり（ラジオ活動）を通じて名取の魅力について取材・発信を行い、地域資源や特色を広く紹介した。これらの取り組みにより、参加した児童・生徒は地域への愛着を一層深め、自分たちの住むまちについて主体的に考える姿勢が育まれた。今後も地域との連携を強化し、地域社会の一員としての自覚と誇りを醸成していくよう考えている。

9. 管理運営状況 【施設所管課及び指定管理者記入】

評価項目		着眼点	自己 評価	所管 評価
1. 実施 体制に 関する 評価	管理運営体制	管理運営に必要な人員配置、組織体制を整備している。	○	○
		業務に必要な職員研修や教育等を適切に行っている。	○	○
		各種管理記録を適切に整備、保管している。	○	○
	施設等の維持 管理等	施設、設備等の清掃、保守点検、修繕等を適切に行っている。	○	○
	安全対策	日常の安全管理や緊急時のマニュアル整備等の体制を整備している。	○	○
	個人情報の 保護	個人情報の管理を適切に行っている。	○	○
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	○	○
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	○	○
	法令等の遵守	特定の者に有利又は不利な取扱いをしていない。	○	○
		開館時間、休館日、使用許可等の運用が法令等に基づき適正に行われている。	○	○
		労働条件等に関する労働関係法令等が遵守されている。	○	○
		その他、関係法令等が遵守されている。	○	○
2. サー ビスの 内容や 水準に 関する 評価	指定事業の 実施	事業計画書等に基づき適切に事業を実施している。	○	○
		業務の再委託は事前に市の承諾を受け、委託先の業務を適切に管理している。	○	○
	自主事業の 実施	施設の設置目的に沿った自主事業を実施している。	○	◎
	利用者の満足 度向上	利用者の満足度向上に向けた取組みを行っている。	○	◎
	利用者の苦情、 要望等の把握 とその対応	利用者アンケートなど、利用者ニーズの把握にむけた取組みを実施している。	○	○
		苦情、要望等について、受付窓口の整備や対応を適切に行っている。	○	○
	利用状況等	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	○	○
3. 経営 状況に 関する 評価	収支状況等	事業計画書等に基づく妥当な事業収支である。	○	○
		経費の節減や使用料収入の向上に向けた取組みを行っている。	○	○
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	○	○

【評価の基準（目安）】

評価		評価の考え方
◎	（優 良）	協定書や事業計画書等より優れた内容で管理運営を行った。
○	（良 好）	協定書や事業計画書等に基づき適正な管理運営を行った。
△	（課題有）	協定書や事業計画書等を下回る内容であり、一部の業務に改善が必要である。
×	（要改善）	協定書や事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかったため、改善を要する。

※該当しない項目については、「―」を記入する。

10. 施設所管課の総合評価 【施設所管課記入】

DXを推進し、地域を超えた交流を行う取り組みはとても評価できる。
 また、普段のエフエムなとり（ラジオ活動）で名取の魅力を発信し地域への誇りと愛着を形成する環境づくりなど、児童の自発性を育む工夫も評価できる。
 今後も、利用者のニーズに即した事業を展開し満足度向上に取り組むこと、地域との交流や連携を深め利用児童が中心となって地域活性化することを期待している。